

1. 困った人 病んでいる人に 真心こもる 奉仕
2. 地域住民 地域医療機関に 密着した 医療
3. 何人も 平等に 医療を受けられる 病院



感染予防、マスクについて

大島 伸一 先生

医療従事者は常に感染予防に努めています。特に基本的な予防策である「標準予防策」は大事です。すべての患者さんを対象にして行う対策のことで、患者さんが感染症にかかっているかどうかにかかわらず実施します。

具体的には、人から分泌、排泄されるものはすべて感染の危険性をもっていると考えて対策します。まず、患者さんに接する前に手指衛生を行うこと。そしてマスクです。患者さんの飛沫等が医療従事者の口、鼻に飛び散る可能性がある場合、サージカルマスクを着けて感染を予防します。

それでは市井の人の、マスクによる（自分が感染しないための）予防は可能でしょうか。WHOなどは医療機関以外でのマスク着用を以前は推奨していませんでした。マスクは症状のある人が、他人に感染させないためにつけるものでした。ましてや症状のない健康な子供にマスクなどあり得ない、それが常識でした。しかしコロナ禍では「無症状でも感染させる恐れがある」としてユニバーサルマスクに宗旨替えです。欧米では被害が大きかったのも仕方ないのかもしれませんが。単位人口当たりの死者数は日本の10倍にもなります。日本では基礎疾患のない子どもや若者はほとんど重症化も死亡もしていません。死者の平均年齢は82歳で、男性の平均寿命を上回ります。第6波の死者の割合は60才以上が94.7%です。（いずれも東京都）

3年前を思い出してみてください。ウイルスに感染したとしても、症状がなければ健康な状態、無症候性感染、であり、たとえ症状が出て重症化しなければ、別段騒ぎ立てることもありませんでした。仮に祖父母が孫から風邪をうつされて亡くなったとしても、それは「寿命」として受け入れていたはずであり、孫を責めることなどありませんでした。

症状のないこどもにマスクを強制し、安全性が十分に得られていないワクチンを勧め、給食中も一切喋らせず、歌も歌わせず、友達と密になって遊ばせない。このような対策が今後必要なのでしょうか。

世界各国ではコロナ前の日常を取り戻しつつあります。日本がコロナ前の日常を取り戻すにはまず大人が「常識」を取り戻す必要があると思います。

（参考資料：ゆうネット意見広告 6月3日毎日新聞）



技能実習生 日誌



技能実習生 ふりかえり日誌 No.1 単日の指導者:近藤介護士
日時:6月14日(曜日:火) 実習病棟:2 氏名:佐ノテ トウスイ

今日は、病棟を案内されました。患者さんに自己紹介をほほせ。
患者さんの手を握りまわす。患者さんが喜んで笑うのを見たら、私も
喜んで感じました。^{ハッピーな気分}

外国人なので日本人の名前を覚えるのは難しいとよくいいますが、元々緊張が
今日は、たくさん患者と話しました。よく聞かれましたが、近藤さんの
説明のおかげで、分かりました。近藤さんの説明がどこまで分かって
て、近藤さんにたくさんきいて案内されました。近藤に感謝してい
ます。

たくさん患者さんに「兄弟が何人ですか」と聞かれました。私は「一人です」
私だけが日本に来たのは祖母を悲しくさせています。患者は家族と
毎日会えなくて悲しくなった人がいると思います。だから、私は患者を
祖母と祖父のように見て世話をして働いて頑張ります。

技能実習生 ふりかえり日誌 No.1 単日の指導者:近藤介護士
日時:6月15日(曜日:水) 実習病棟:2 氏名:佐ノテ トウスイ

今日は、~~時間~~時間がなくて、昨日のようにたくさん話せませんでした。
(しかし、「朝が早い」、「夜が早い」、「今日は、このように」だけが幸せになり
ました。明日も頑張ります。今日、ベッドを拭くとき、患者さんの
つくえに貼っている写真を見たら、私の心に何か起きて、
泣きたがったです。とても幸せな写真なので、全部ぬぐってはじめて
ました。人間はだれも生まれ、学校に行き、会社に行き、
結婚して、子供を育て、高齢者になって、亡くなります。
だから、患者さんの(自分や家族など)写真を見たら、患者さんの
人生の一部を感じてきて涙がぽろぽろ出るようでした。
何十年のあと、私も今の患者さんのようになっています。そのとき、自分の
人生を見つめ直して後悔するようになりたくないです。だから、いつも
今のことを大切にしたいです。(旅行のとき、お気に入りの写真を
撮りません。なぜなら、その瞬間を楽しみたいからです)。介護の
仕事は、私にとって本当に意味があります。その仕事をする
榮譽があったけれど、毎日頑張ることも今のことを大切にすること
に思っています。



納涼祭中止のお知らせ

昨年に続き、感染症予防のため、ご家族様や地域の方をお招きしての納涼祭は中止とさせて
いただきます。各病棟では規模を縮小して納涼祭やレクリエーションを開催いたします。

今後も感染対策を徹底しながら、患者様には季節を感じられるようなイベントをたくさん取
り入れていきます。

